

第一夜

夜、顔をなでる者 解答

①

重要古文単語

- おはします…いらつしやる。
- え〜(打消)…〜できない
- むつかしげなり…気味が悪い。
- 夜もすがら…一晩中
- おはしまさで…おなくなりになって
- やはら・やをら…静かに・そつと
- 具す…連れていく・持つていく

古典文法

- あるにも…動詞
- 怪し…形容詞
- むづかしげにて…形容動詞
- 失せにけり…動詞
- 寝ねたる人…動詞
- 恐ろしくて…形容詞
- おそろしげなり…形容動詞

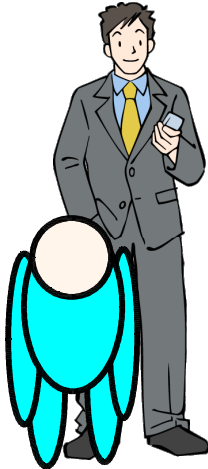
読解

問1 かつての天皇の御所だったが、主人が亡くなった後は荒れ果てて、庶民が住むようになってしまったところ。

問2

問3 寝ている人の顔をなでる。

問4 怪しい老人を捕まえ、逃げないように縛り上げるため。

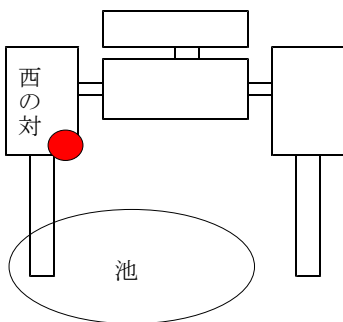


現代語訳

今となつては昔のことだが、陽成天皇のお住まいになつていた御所は、天皇がお亡くなりになつた後は、庶民が住むようになってしまつていた。池などがほんの少しだけ残つている所にも庶民が住んでいた。

夏頃、西の対の縁側で、ある人が寝ていたところ、身長が九〇センチばかりの老人が来て、寝ていた人の顔をなでたので、奇怪だとおもうけれども、恐ろしくて、何も出来ないで、寝たふりをして横になつていたところ、老人はそつと静かに振り返つて出て行くのを、星あかりに見ていると、池の水際に行つてかき消すようにいなくなつてしまつた。池を掃除した時も分からないくらい、浮き草や菖蒲などの雑草が生い茂り、とても気味が悪く恐ろしい様子だった。随つて、「ますます池に住む化け物ではな

いだろうか。」と恐ろしく思つていたところ、その後も夜な夜な老人が来ては顔をなでるので、この半紙を聞いた人はみな恐れおののいていたところ、武勇を誇る者がいて、「さあ俺様が、その顔をなでるものを必ず捕まえてやろう。」と言つて、その縁側にたった一人、荒縄を持つて、横になり一晩中待つていたところ、宵の口には現れなかつた。



②

重要古文単語

○おぼゆ…思われる。

○おどろく…目を覚ます。

○ただ縛りに縛りて…ひたすら縛り付けて

古典文法 係り結びの法則

問題・次の傍線部の言葉の活用形（未然形・連用形・終止形・連体形・已然形・命令形）は何か。

○夜中は過ぎやしぬらむと、（連体形）

現代語訳 夜中は過ぎただろうか。

読解

問5 怪しい老人を捕まえる事を念頭に置いて、現場にいたから。

問6 怪しい老人が水の精であり、元の水の姿に戻ったので、全体的に水が増えた。

問7 怪しい老人を縛っておくための縄。

現代語訳

夜中は過ぎただろうかと、思ううちに、待ちきれなくて少しうとうとしていたところ、顔に何か冷たく当たったので、あらかじめ念頭に置いて待っていたことなので、夢見心地にもはつと思つて、目を覚ますやいなや、起き上がつてその老人を捕まえた。荒縄でひたすら縛り上げて縁側の手すりに縛り付けた。

そうして、人を呼び、人が集まり火をともして見たところ、身長九〇センチぐらいの小さい老人で、水色の着物を着たのが死にそうな様子で、縛り付けられて目をパチパチさせていた。集まった人があれこれ聞くが、答えもしない。しばらくすると、少し笑つて、あちこち見回して、細くわびしそうな声で「たらいに水をいれてくれないか。」と言う。そこで、大きなたらいに水を入れて、老人の前に置いたところ、老人は首を伸ばしてたらいに向かい、水に映つた自分の姿を見て「わしは水の精じゃ。」と言つて、水にザブンと落ち入ると、老人の姿は見えなくなった。するとたらいに水が多くなって、端からこぼれた。老人を縛っていた縄は、結ばれたまま水の中にあつた。老人は水になって溶けていなくなつてしまった。人々はみなこれを見て驚き不思議がつた。そのたらいの水をこぼさないで、たらいを抱えて池に入れてやった。それから後は、老人が来て人の顔をさぐることはなくなった。これは水の精が人の姿になっていたのだと、人々がいつていたと語り伝えているそうだ。